

## 書写のイメージを変えよう 1

山梨大学教授

宮澤

正明

小学校国語科書写は学習内容はわかりやすいが、中学校国語科書写は具体的に何をどのように指導すればよいのかがはっきりしない、といった声を耳にします。

つまり、小学校で筆使い、字形、字配り・配列などの基礎・基本を既に学習した生徒に対して、中学校書写では新たに何を指導するのがイメージしにくく、結局、小学校の復習的内容や、手本に似た文字を書かせる授業方法にならざるを得ない。これでは鮮度が落ちて生徒の関心・意欲も薄れる、というところのようです。

教科書の教材にそって指導すればそれなりに授業は進められるのですが、授業者も生徒も、中学校書写の目的、目標、学習内容が漠然としていたならば、その授業はいたずらに筆をくゆらすだけの時間と化してしまっでしょう。

そこで、今回から数回に分けて、中学校書写の目的と具体的内容を示すとともに新たな学習指導方法を提案しながら、中学校書写の内容と授業のイメージを鮮明にしたいと思います。

は、言うまでもありませんが、小学校で取り上げる

書写の基礎・基本は、中学校でも継続的に学習し深めていく必要があるということです。その際、単にフィードバックするのではなく、生徒自身の書写力を評価する機会を与えて自己の課題を発見させ、どこに立ち戻る必要があるのかを考える時間、場を設定することです。

例えば、

ア 生徒相互による「基礎・基本チェック」

小学校で学習した内容を項目化したチェック表を用意し、文字を書く姿勢、書く過程、書かれた文字などを生徒相互で観察し合い、基礎・基本のチェックを行う方法です。基礎・基本の確認と理解を深めるだけでなく、他者の観察やチェックを通して自己のチェックやフィードバックの機会を得る方法といえます。

イ 懐かしの課題、再チャレンジ

小学校のときに書いた課題や言葉を再度書いてみようというものです。過去に書いた文字が手元になくとも、当時のイメージは残っているものです。自己の書写力向上を信じ、また、現役の小学生には負けられないといったプライドをもって意欲的に臨むと思われまふ。この方法でも先の「基礎・基本チェック表」のように「筆使い、字形チェック表」などを用意して、課題の発見、フィードバックができる態勢を整えておく必要があります。

中学校書写で取り上げる主な内容を要約すると次のようになるでしょう。

小学校で学習した姿勢、執筆法、筆使い、字形、配列・配置など、書写の基礎・基本の確認

楷書の書き方のいろいろ

(いわゆる許容される書き方)

書き文字と読み文字との相違点

速書きに適した書き方

(基礎的な行書の書き方)

漢字と仮名との調和

書式や形式に調和する書き方

(横書きへの対応)

用具・用材の選択

書き文字文化の理解と継承

(印字機器との共存)

ウ 書写の先生になろう

学年、校種を超えて交流することは現実的には困難がありますが、ここではあえて生徒が先生役となつて書写を指導する方法を提案してみたいと思います。

グループを編成し、それぞれが小学校の書写の学習内容を復習した上で指導対象となる学年を設定し、課題となる言葉や文字を考え、教具・教材(いわゆる手本)を作成して指導方法を考えます。小学校に出前授業することが困難な場合は、実際には中学校のクラスで模擬的に行うことが現実的です。時間のかかる作業で、とても書写の時間内ではできそうにもありませんが、総合的な学習の時間などを活用して、例えばポスターを書く、案内状を書くなどといった、書き文字を生活に生かすための設定にすると実践可能になります。同様に、書写の時間を同じ曜日時間に仕組めば、中学二、三年生が一年生に「行書の基礎」を指導する方法も考えられます。

今回は、の項目だけの内容になりましたが、書写の授業は文字を書く学習を中心とすることはもちろんですが、形骸化しやすい書写授業からの脱皮、また新たな書写の授業のイメージを抱いていただくために、あえて極端な方法を提案してみました。参考になれば幸いです。